

1. はじめに

(1) 蘇原第一小学校について

蘇原第一小学校は、明治6年(1873)、古市場根本寺を仮校舎として和親舎(かしんしゃ)を創設。児童数は男子87名、女子12名の99名で始まった。その「和親舎」の名は、今でもPTA広報誌「和親舎だより」に引き継がれている。その後、何回かの改称を経て、昭和47年(1972)に蘇原第一小学校と改称され、現在に至る。

本年度、全校児童数は947名(平成30年5月1日現在)と岐阜県1位の大規模校である。



(2) 学校経営方針

平成26年度以来、本校では「笑顔(美しい心)でつながる蘇一小ピース」を学校経営の重点としている。3本指の『蘇一小ピース』は子供と学校、更には保護者や地域の方をつなぐ合言葉で「い・の・ち」「へ・い・わ」「こ・こ・ろ」「つ・く・る」「む・か・う」「な・か・ま」「か・ん・しゃ」など、蘇一小に関わる人々が笑顔でつながるために大切にしたいことや気持ちが込められている。

本校では、高学年を中心としたあいさつボランティアが盛んである。また、静かな中で落ち着いて行う掃除も習慣となっている。1～6年生の縦割り集団で活動する「なかよし遊び」では、学年を超えての関わり方を学び、その中で、高学年が低学年に自然な形で優しく関わる姿が多く見られている。

2. PTA活動について

(1) 平成30年度スローガン

ありがとうの笑顔をいっぱい
～みんなでつなげよう 蘇一小ピース～

蘇原第一小学校は児童数947人のマンモス校であるにも関わらず、学校生活の様子はまとまりがあり、何より子供らしい元気な笑顔にあふれる学校である。しかしながら、近年社会の子供たちを取り巻く環境は複雑化しており、元気に学校に行き、無事家に帰ってくる、そんな当たり前のことが当たり前でない現状がある。子供が事件事故に巻き込まれたり、災害の犠牲者になったりすることなく、安全でよりよい学校生活を過ごすためには、家庭・学校・地域がつながりを持ち、子供たちを見守り育てていくことが大切ではないだろうか考える。

今年度のPTAスローガンには、学校と子供たち、更には家庭や地域の方々をつなぐ合言葉、『蘇一小ピース』の言葉が入っている。蘇一小に関わる人々のつながりがより広がり深まっていくこと、将来を担う子供たちが笑顔で健やかに成長することが願いとして込められている。

(2) 活動組織

【PTA組織図】

〈本部役員会〉			
会長、副会長(専任)、副会長(校外生活委員長兼任)、書記、会計、広報委員長、広報副委員長、校外生活副委員長、研修委員長、研修副委員長、学級委員長、学級委員副委員長			
校外生活委員会	広報委員会	研修委員会	学級委員会

(3) あいさつ運動

蘇一小の朝は元気なあいさつで始まる。毎朝、6年生が校門や児童玄関に立ち、下級生をスリーピース（蘇一小ピース）で迎えている。PTA本部でも各学期初めに三日間校門に立ち、育成本部、地域の方と共に『PTA あいさつ運動』を行っている。笑顔でつながる第一歩として、家庭の中で、学校の先生や仲間に、さらには、登下校中にお世話になる見まもり隊の方や地域の方々へのあいさつを大切にしていきたいとの願いを込めて活動している。



(4) ふれあい広場

毎年夏季休業中に、青少年市民育成会議主催の「ふれあい広場」が開催されている。参加する地域団体がそれぞれ体験活動を用意し、子供たちとともに活動することを通して互いのふれあいを深める一日となっている。今年度蘇一小PTAでは“子供たちが自分自身で作り、遊び、楽しんでもらう！”というねらいから、『スライム作り』と『風船ロケット』の講座を用意した。



主催者が「こんな行列は見たことがありません！」と驚くほど、小さな子供から大人まで、沢山の方の楽しそうな笑顔を見ることができた。『スライム作り』に詳しい子供たちが、講座運営をスタッフとして手伝い、作り方をアドバイスしたり、振り返りの時にアイデアを出したりするなど積極的に参加することができた。大人と子供が色々な交流をもつことができた「ふれあい広場」であった。



3. 各専門委員会の活動について

(1) 校外生活委員会

登下校中や学校外における活動において、地域の方、地区長、時には育成長と協力しながら、子供たちの安全確保に努めている。また、地域貢献活動など、子供たちの学校外での生活を支えている。

①リサイクル活動

年2回、学校・PTA・地区長・育成長・自治会の方々と連携して行い、子供たちも一緒に活動している。そのため、事故のない様、活動中の誘導、安全確認を第一にしている。

子供たちが行っている“エコ活動”と併せて、分別によって資源を再利用する“リサイクル”活動を親子で実施している。



②校外パトロール

特に、夏季や冬季の長期休業中に、不審者や事故等から子供たちを守るため地域の見回りを行っている。

③交通安全教室

3年生を対象に、自転車の正しく安全な乗り方について学ぶ教室を行っている。

④通学班会議

通学に関すること、安全に関すること等の会議を地区長が中心となって行っている。

(2) 広報委員会

PTA 広報誌『^{かしんしゃ}和親舎だより』を年三回（各学期末）発行し、学校と保護者、地域をつなぐ。



読んでいただく方に、PTA 活動・学校行事等を通して、学校での子供たちの様子を知ってもらい、考えてもらい、そして行動してもらうことが目的である。

185号では、「我が子が一年生だった時に知りたかったこと」を中心に、『知っているようで知らない蘇一小のこと』等の特集した。保護者が、普段なかなか見られない子供たちの様子を知って、より安心して笑顔で学校に送り出してもらえるよう、その一助となればと考え発行した。



(3) 研修委員会

『親の学びの場』『親のネットワークを広げる場』をつくることを目的とし、子供の心身の発達課題などを学び、親の役割や家庭の在り方を再確認する機会として【子育て広場（家庭教育学級）】を開催している。今年度は「親子で共有できる内容」で活動を進めている。

①参加型子育て広場（年三回開催）

第1回は給食試食会。1～3年生、わかば学級の保護者を対象として実施した。普段子供たちが取り組んでいることを保護者の方にも体験してもらう”ことを目的とし、配膳・片付け・牛乳パックの処理を体験してもらった。

第2回は岐阜大学の太藪千穂先生に『子供のお小遣いについて』というテーマで、講話をしていただいた。

②在宅型子育て広場

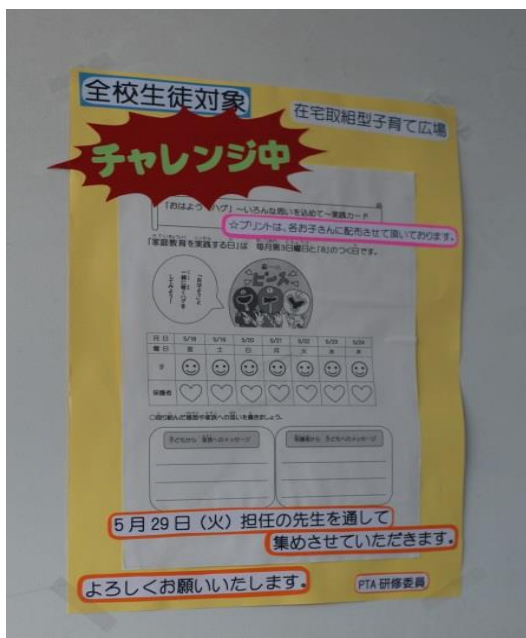
今年度、PTA 会員がそれぞれの家庭で取り組みやすい『在宅型子育て広場』として、「親子で共有できる内容」を企画し実践した。

○第一弾（5月実施）

「おはようハグ ～いろんな思いを込めて～
朝のあいさつと一緒にハグをしよう！」

5月の連休明け、新しい環境の中でストレスを感じ、疲れが出てくる頃に実践した。家庭で取り組むことを通して、子供たちが“家庭が心の居場所である”と実感できることを目的に一週間取り組んだ。

蘇一小では初めての取組だったため、どの様になるか不安であった。「ハグ」に抵抗のある保護者や子供もいたが、たくさんのご家庭から「笑顔で一日が始まった」「朝から元気が出た」という前向きな感想を得られた。



○第二弾(夏季休業中に実施)

「ハイゼックス（災害救援用炊飯袋）で
ご飯を炊いてみよう ～防災を考える～」

「ハイゼックス」は災害時、避難所に於いて炊飯器が使えなくても、お湯を沸かし温かいご

飯を炊くことが出来る炊き出し袋である。

近年、地震や局地的豪雨、台風等の災害が多いことから、夏季休業中に、親子で「ハイゼックス」を利用してご飯を炊く活動を実施した。災害が起こった時にどう行動するか、普段から防災対策として何が出来るかを話し合い、考える機会とすることができた。

9月の台風21号では各務原市内でも停電となる地域があった。改めて、災害発生時のライフラインを確保することの大切さについて考えさせられる年であった。



(4) 学級委員会

子供たちが心豊かに育つことを願い、保護者と学校をつなぐ架け橋としての役割を果たしている。また、ベルマークを収集し、子供たちのよりよい学校環境づくりを推進している。

①ベルマーク収集

今年度は子供たちにもベルマーク収集活動に積極的に関わって欲しいと考え、ベルマークコーナーの充実やキャンペーンに力を入れた。



○ベルマークコーナーの充実

昨年度の岐阜県および全国集票ランキングを掲示して関心を高め、子供たちが自ら楽しみながら分別して持って来たくするようなベルマーク回収箱を設置した。



○“図書室おすすめ！”

ベルマーク本 総選挙”を実施

子供たちが目標をもってベルマーク収集に取り組めるよう、投票で購入するベルマーク本を決定する“図書室おすすめ！ベルマーク本 総選挙”を実施した。図書委員の子供たちも協力し、「みんなで選ぶ、みんなが読みたい！」候補本のポスターを作成した。



○ウェブベルマーク登録のお願い

今年度新しい取組として以下のことをPTA会員に啓発した。

- ・ベルマーク財団 HP 上での「ウェブベルマーク登録」
- ・被災地校支援へにつながる「1日1クリックで1円の募金になる“1クリック募金”」である。

ウェブベルマーク登録後、ベルマーク財団のHP を経由して買物をするウェブベルマークポイントがもらえ、ベルマークと同じように使うことができる。切ったり集計したりする細かい作業の必要のない新しいベルマークの集め方としてPTA 会員に周知することができた。

②学級懇談会の司会進行・議事録作成

③参観での見回り

腕章をつけ、授業の妨げとなる私語や写真撮影を控えていただくよう声掛けをしている。

4. 蘇原中学校地区

コミュニティ・スクールへの取組

各務原市では、中学校区ごとに小中学校が連携し、学校・保護者・地域のみなさんが共に知恵を出し合い、学校運営に参画し、協働して子供たちの豊かな成長を支えるコミュニティ・スクールが推進されている。蘇原中学校区においても、様々な取組が始まっている。



(1) 蘇原中水泳部生徒による蘇一小水泳教室へのボランティア参加

夏季休業中の7月23日~25日に3・4年生の児童を対象に行われた水泳教室に、蘇原中学校・水泳部員のボランティアが多数参加した。分かりやすく丁寧に声をかけたり、安心感をもたせる補助をしたりすることで、例年より泳力を伸ばせる児童が多くいた。



(2) 蘇原中ボランティア生徒による 「あいさつ運動」への参加

蘇一小の伝統であるあいさつ運動にも、蘇原中ボランティアの生徒が隔週月曜日に参加して活動を盛り上げている。学校内外で元気なあいさつが響き合う、蘇原中校区となることを願っている。



他にも、運動会の応援合戦審査員として蘇原中生徒が参加している。また、H30年9月より蘇一小のベルマーク収集箱を蘇原中学校に設置していただいている。校区での連携を図った活動等、地域・家庭・学校がそれぞれの役割を果たしながら、子供のよさや可能性を引きだし、伸ばす取組を推進していけるよう、PTAが出来る役割が何であるかを考え、今後もそれを果たしていきたいと考えている。

5. まとめ

蘇一小のPTA本部役員の任期は一年となっているため、引き継ぎはあるものの、“PTA活動がどんなものであるか”ということもあまり分かっていない中、平成30年度の活動が始まった。“発表がある”というプレッシャーを感じながらの活動開始だった。

保護者がそれぞれに多忙な中で、活動を進めていくのは大変だったが、「子供たちの安全で充実した学校生活をサポートするために何が出来るか」を各々が考え、情報を共有し、話し合っていくことで、よりよい活動作りを進めることができた。蘇一小で大切にしている“あいさつ運動”の様に引き継いだものを変わずに続けていくこと、在宅型子育て広場のように新しく取り組むこと、その年その年で、色々な取組方が出来るだろう。

今年度役員として学校や地域の様々な行事・会議に参加する中で、子供たちの生活がたくさんの方に支えられていることを改めて感じた。青少年市民育成会議に参加されている地域団体や、見まもり隊の方、芋ほりや田植えの機会を提供して下さったり、子供たちに声をかけて下さったりする地域の皆様等である。中学校区ごとのコミュニティ・スクールへの取組が大切になってきている今、私たち保護者がそのことに感謝し、また自分たちも地域に暮らす大人として子供たちを見守る役目を果たしていくことが大切だと実感した。そうすることで、蘇一小の地域のつながりはさらに深まっていくのではないだろうか。その一つ一つの小さな積み重ねが地域の大きな力となり、子供たちの笑顔や明るい未来にも繋がっていくのではないかと考えている。

